第3回熊本都市道路ネットワーク検討会

将来道路ネットワークの検討

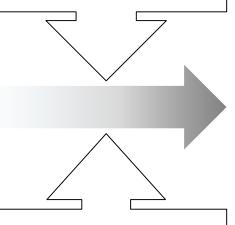
令和元年12月25日

熊本都市圏の課題

- ▶本州・海外からの玄関 口が有効活用 されていない!
- ▶市内アクセスには ラストワンマイルが 課題!
- ▶市内中心部 (東西軸・南北軸)の 交通混雑緩和が課題!

アンケート調査

シンポジウム来訪者や県民 アンケート調査より得られた 「道路が担うべき役割」、 「強化すべき区間」 についての意見



熊本市の将来構想

- ・九州中央の広域交流拠点 にふさわしい都市づくり
- 誰もがいきいきと輝く暮らし やすい都市づくり (第2次熊本市都市マスタープラン)

道路ネットワークの将来像 (3本柱)

▶循環性があり、災害に強い 道路ネットワークの形成

> 新たな"ひろがり" ~ 熊本市を中心とした連携軸を築く ~

交流人口の拡大

九州の経済発展 をけん引 (物流・観光) 災害時の 広域支援 代替路の確保

 定時性・速達性を兼ね備えた 道路ネットワークの形成

> 新たな"つながり" ~熊本の玄関口との連結を強化する~

国内外の 交流強化 (空港・港) 地域経済の 活性化 (物流・観光)

日常移動の 利便性向上

▶多様な交通モードの機能を強化する 道路ネットワークの形成

> 新たな"動きやすさ" ~"安全·安心で快適な移動"を支援する~

日常的な交通混雑の低減

中心市街地の 活性化 交通の選択肢の 多様化

2. 将来道路ネットワークの検討

将来像実現のために道路が担うべき役割

将来像(3本柱)

市民の主な声

目標

交流人口の拡大

道路が担うべき役割

圏域の拡大

循環性があり、 災害に強い 道路ネットワーク形成

・他県との広域連携の強化

- ・高速IC~中心部のアクセス 強化してほしい
- ・モノの流通を増やしてほしい

九州の経済発展 をけん引

南部方面~熊本市役所周辺の 高速道路ICとのアクセス強化

新たな"ひろがり"



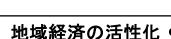
災害時の広域支援、 代替路の確保

高規格道路による代替路の確保

空港~熊本駅周辺のアクセス強化

定時性・速達性を 兼ね備えた 道路ネットワーク形成

- ・空港〜熊本駅や中心部が スムーズに繋がってほしい
- ・高速IC~中心部までを都市高 速道路でつなぐべき



日常移動の 利便性向上

国内外の交流強化

東部地域~熊本市役所周辺の アクセス強化

物流拠点~熊本市役所周辺の アクセス強化

港湾〜製造拠点のアクセス強化

新たな"つながり"



目的地までの移動時間が読 めない

- ・移動目的に応じた交通手段 の使い分けをしたい
- ・中心部の国道3号等がいつ も混んでいる
- 路線バスがいつも遅延する

日常的な交通混雑 の低減

> 中心市街地 の活性化

交通の選択肢 の多様化

国道3号の交通混雑の緩和

多様な交通モードの共存

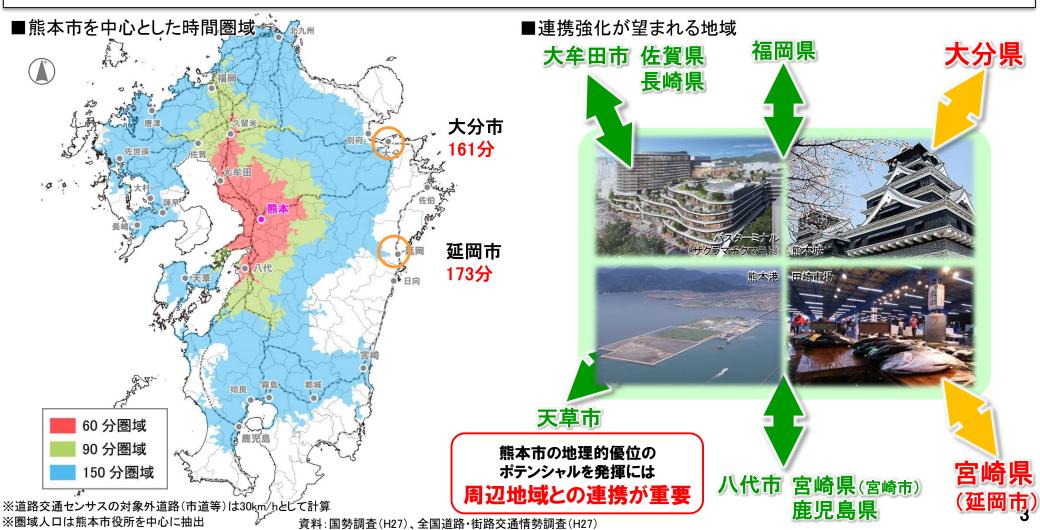
幹線道路の道路空間再編

多様な交通モードの 機能を強化する 道路ネットワーク形成

新たな"動きやすさ"

■圏域の拡大

- ▶ 熊本都市圏は、九州の中央に位置している。
- ▶ しかし、熊本市を中心とした150分圏域では、大分市・延岡市等が圏域から外れている。
- ▶ 熊本都市圏を中心とした連携軸を築くためには、大分・宮崎方面も含めた広域的な連携強化が必要。
- ▶ 広域的な「ひろがり」の構築により、
 魅力・求心力が向上し、
 広域的な人的・物的の交流促進
 が期待。



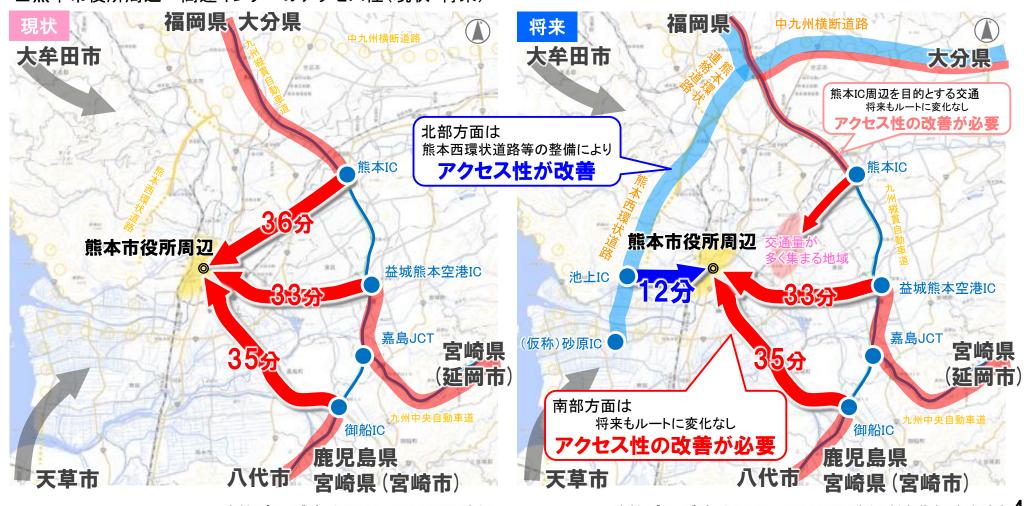
2. 将来道路ネットワークの検討

道路が担うべき役割

I南部方面~熊本市役所周辺の高速道路ICとのアクセス強化

- 高速道路ICまでの所要時間は、熊本市役所周辺から約35分を要する。
- 将来、アクセス性の改善が見込めない南部方面からの時間短縮を図ることで九州経済発展のけん引に期待。
- 高速道路ICまでのアクセス性は、北部方面で一部改善するが、熊本ICからのアクセス性の課題は残る。

■熊本市役所周辺~高速インターのアクセス性(現状・将来)



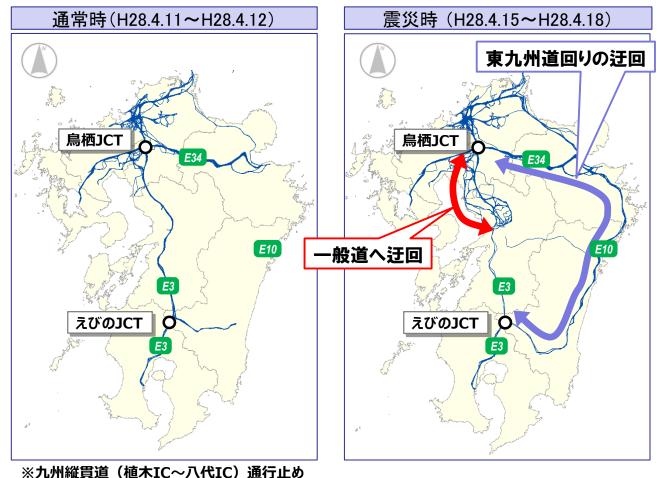
資料:プローブデータ(H30.8~H31.1 平日7時台)

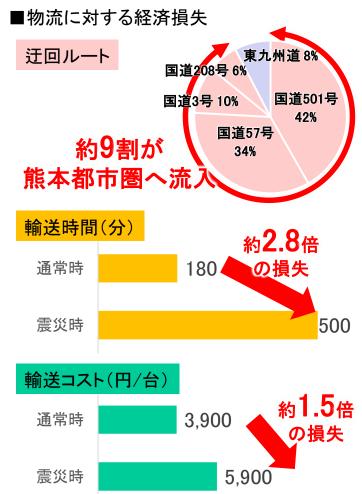
資料: プローブデータ(H30.8~H31.1 平日7時台),将来道路は規制速度 4

■高規格道路による代替路の確保①

- 熊本地震時には、九州縦貫道(植木IC~八代IC)が(平成28年4月14日1時~4月29日9時)一時通行止めとなった。
- 物流車両の約9割が熊本都市圏内の一般道路へ迂回。
- 迂回交通による経済損失は、輸送時間約2.8倍、輸送コスト約1.5倍。

■鳥栖JCT~えびのJCTを通過する物流車両の迂回状況





※経済損失は、九州道(鳥栖JCT \sim えびのJCT)の通行に対する試算 (Σ {(各ルートの輸送時間・輸送コスト)×(各ルートの利用割合)}

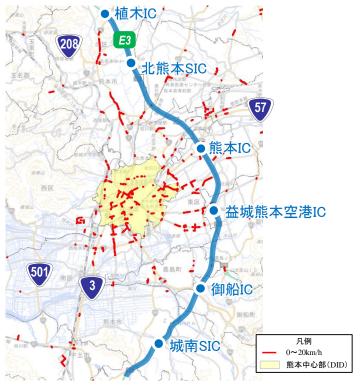
※貨物車プローブデータ(震災前:H28.4.11~4.12、震災後:H28.4.15~4.18)、※鳥栖JCT~えびのJCTを通過した貨物車を対象

高規格道路による代替路の確保②

- 迂回交通の影響により幹線道路で大渋滞が起こり、避難・救援車両や物流車両の活動に大きな影響が生じた。
- 特に、熊本中心部の平均速度は、通常時に比べて約1割低下。
- 熊本都市圏では、災害時にも物流機能を維持させるための九州縦貫道の代替路が必要。

■熊本地震発生前後の平均速度の変化

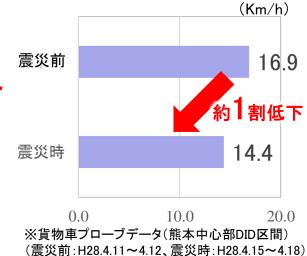
震災前(H28.4.11~H28.4.12)



震災時(H28.4.15~4.18) 速度低下 区間が拡大 益城熊本空港IC 九州縱貫道 通行止め ●城南SIC 凡例 能本中心部(DID)

※九州縦貫道(植木IC~八代IC) 通行止め (規制) H28.4.14(21時) ~ (解除) H28.4.29 (9時)

■熊本中心部(DID内)の平均速度



▼国道3号熊本中心部内の状況



■交通拠点間のつながりの強化

- 熊本市は、交通拠点が東西に点在。
- 円滑な都市内移動のためには、交通拠点間の移動の定時性・速達性の向上が必要。
- 交通拠点間のアクセスを強化することで、物流活動等の効率が向上し、産業の活性化が期待。

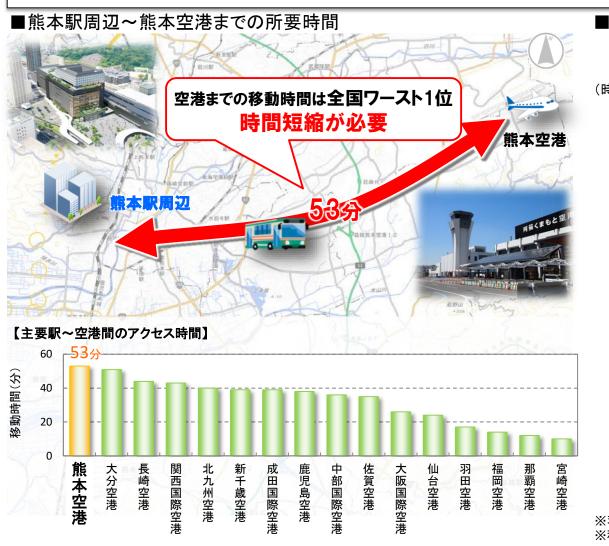


■空港~熊本駅周辺のアクセス強化

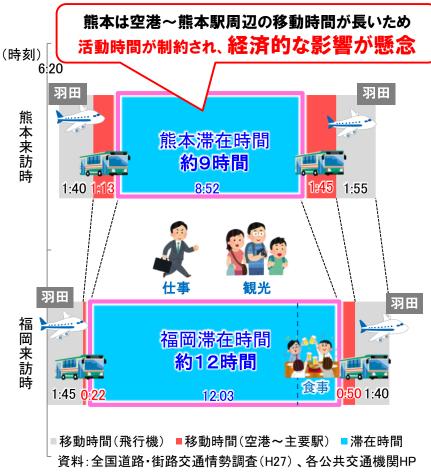
- 熊本空港は、熊本駅周辺から離れており、移動時間は全国ワースト1位。
- 移動時間が長いことから、活動時間に制約がかかる等、経済的な影響が懸念。
- 空港から熊本駅周辺までの速達性向上により、

 国内外の交流連携の促進や

 経済成長が期待。



■関東圏(羽田空港)からの日帰り滞在時間



※羽田空港と最寄り空港を結ぶ始発便、最終便を利用した場合の日帰り滞在時間を算出 ※移動時間(空港~中心市街地)には公共交通の待ち時間等も含む

資料:各公共交通機関HP

■東部地域~熊本市役所周辺のアクセス強化

熊本都市圏は、近年、菊陽町や大津町等の東部地域で人口が増加しており、将来も増加予想。

資料:全国道路·街路交通情勢調査(H27)

- 東部地域から熊本市役所周辺までは、移動時間の長さや時間の不確実性が問題視されている。
- 速達性・定時性を向上させる事により、

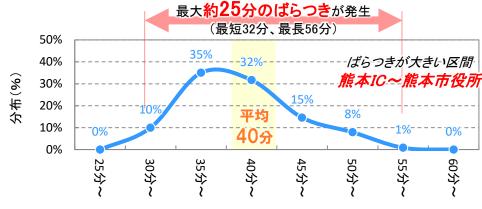
 日常移動の利便性向上

 が期待。

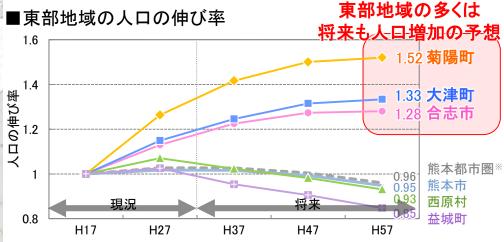
■熊本市役所~東部地域までの所要時間 合志市役所 大津町役場 48分 ◎ 52分 ◎菊陽町役場 44分 〇西原村役場 48分 能本市役所〇 〇 益城町役場 44分 東部地域~熊本市役所周辺の 速達性・定時性が必要

※熊本都市圏:熊本市、宇土市、宇城市、合志市、大津町、菊陽町、西原村、 益城町、嘉島町、御船町、甲佐町

■東部地域(例:菊陽町)から熊本市までの所要時間のばらつき



資料:プローブデータ(H29.2平日7時台~18時台)



資料: 国勢調査(H17~H27)、国立社会保障·人口問題研究所(H37~H57)

■物流拠点~熊本市役所周辺のアクセス強化

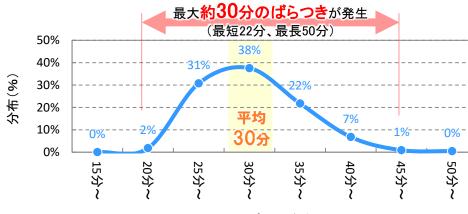
- 近年、インターネットショッピング等の普及もあり、宅急便等の小口配送が増加傾向。
- 熊本市でも、熊本IC付近の物流拠点に輸送後、各配送先へ小口輸送されており、輸送時間の長さや 時間の不確実性が問題視されている。
- 速達性・定時性を向上させる事により、物流効率が向上し、産業の発展が期待。

■熊本市役所~物流拠点までの所要時間



資料:九州高速道路ターミナル株式会社HP

■所要時間のばらつき



資料:プローブデータ(H29.2平日7時台~18時台)

■宅急便等取扱個数の推移



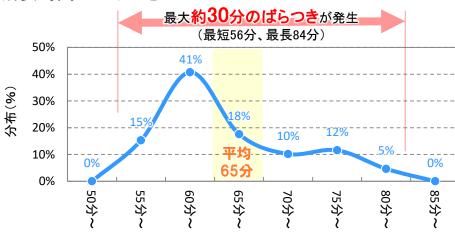
資料: 平成30年度 宅配便等取扱個数の調査及び集計方法 国土交通省

■港湾〜製造拠点のアクセス強化

- 大津町や合志市は県内でも有数の製造拠点。材料や製品等の輸送で熊本港を活用。
- 熊本港から製造拠点までの、**移動時間の長さや時間の不確実性**が問題視。
- 速達性・定時性を向上させることにより、物流効率が向上し、<u>産業の発展</u>が期待。



■所要時間のばらつき



※大津町(本田技研工業㈱)~熊本港の所要時間を算出

資料:プローブデータ(H29.2平日7時台~18時台)

<熊本港について>

- 大津町の大手製造業者が熊本港で輸入を始めたこともあり、 国際コンテナの取扱量が近年増加しています。
- 産業の活性化には、 港湾の利便性向上を図る ことが重要です。



H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30

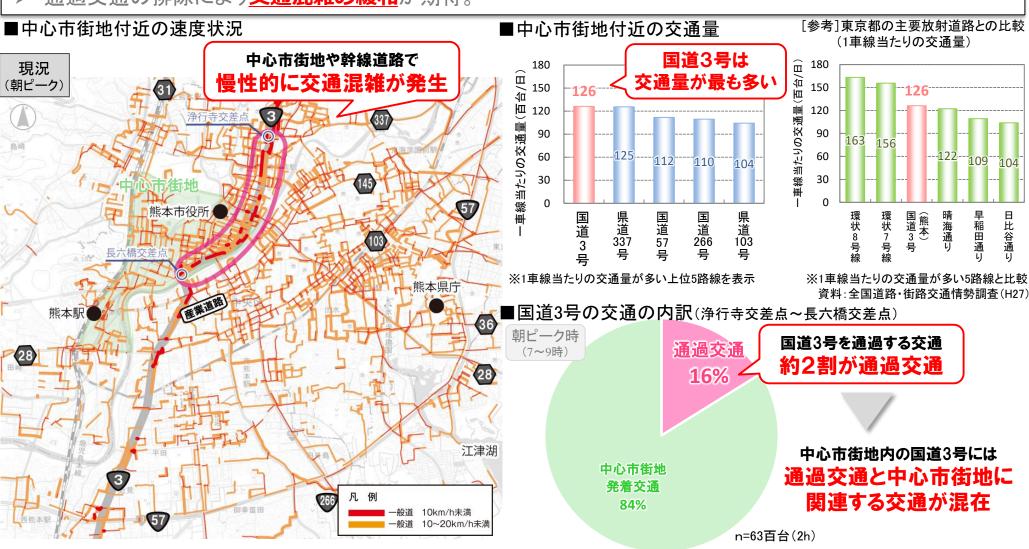
資料:熊本港ポートセールスビジョン(R1)

国道3号の交通混雑の緩和

熊本市の中心市街地や付近の幹線道路では、交通混雑が恒常化。

資料:プローブデータ(H28.9~H29.2平日8時台)

- 特に、中心市街地を縦断する国道3号は交通量が最も多く、走行速度も低い。通過交通が2割を占める。
- 通過交通の排除により交通混雑の緩和が期待。



資料:ナンバープレート調査(R1.5.15 7:00~9:00) 12

■多様な交通モードの共存、①

- 熊本市中心部は、混雑箇所が集中しており、路線バスのルート上にも混雑箇所は多い。
- 交通混雑の緩和を促すとともに、公共交通と共存する都市づくりが必要。
- 交通混雑の緩和により、**円滑な移動が可能**となり、経済活動の活発化が期待。

■現状の主要渋滞筒所およびバス路線



■能本市中心部の交通混雑状況





■多様な交通モードの共存による効果



177 cars 自動車のみだと 交诵混雑が発生

多様な交通モードが共存すると 自動車交通量が減少 (交通混雑の緩和)

多様な交通モード が共存すると





3 buses

1 tram

2. 将来道路ネットワークの検討 多様な交通モードの機能を強化する道路ネットワークの形成

■多様な交通モードの共存②

- ▶ 乗換え等の利便性や、定時性、速達性に優れたLRTのネットワークが充実。
- 公共交通を補完する移動手段が充実しており、気軽におでかけしやすいまち。



2. 将来道路ネットワークの検討

道路が担うべき役割とネットワークのあり方

道路が担うべき役割

ネットワークのあり方

不足しているネットワーク

- ■圏域の拡大
- ■南部方面~熊本市役所周辺の 高速道路ICとのアクセス強化

■高規格道路による代替路の確保

- [平常時]
- ・市役所周辺から南部方面の高速道路ICへアクセス強化 を図り、九州縦貫自動車道に<u>南北の玄関口</u>を設けた
- 循環ネットワーク(環状道路)を構築

[災害時]

熊本地震を経験した、高規格道路による

「代替路を確保」するネットワークの構築

- ■空港~熊本駅周辺
- ■東部地域~熊本市役所周辺
- ■物流拠点~熊本市役所周辺
- ■港湾~製造拠点

のアクセス強化

空港・港湾⇔市役所周辺の交通拠点間の

「アクセス性を向上」

するネットワークの構築

- ■国道3号の交通混雑の緩和
- ■多様な交通モードの共存
- ■幹線道路の道路空間再編

国道3号を含む中心市街地周辺の

「通過交通を分担」する

